

RS ウイルス感染症(母子免疫ワクチン) 予防接種のお知らせ

＜RS ウイルス感染症とは＞

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴(ゼーゼーと呼吸しにくくなること)や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRS ウイルス感染症発生数は12万人～18万人であり、3万人～5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気を必要としたとする報告もあります。

RS ウイルスの流行には季節性があり、新型コロナウイルスの流行以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行がみられています。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療(対症療法)が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。

＜母子免疫ワクチンとは＞

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

＜ワクチンの効果＞

	生後90日時点	生後180日時点
RS ウイルス感染による医療受診を必要とした下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
RS ウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症(※)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※ 医療機関への受診を要するRS ウイルス関連気道感染症を有するRS ウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

＜接種後の副反応＞

主な副反応は接種部位の疼痛(40.6%)頭痛(31.0%)筋肉痛(26.5%)、10%未満で接種部位の紅斑や腫脹、頻度不明ですが発疹や蕁麻疹もみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

また、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もありますが、解釈に注意が必要であるとされています。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

1 持参するもの

予防接種番号、母子健康手帳、氏名・生年月日・住所が確認できるもの(マイナンバーカードなど)

※予診票は市内の指定医療機関に設置してあります

★「予診票(無料券)」に必要事項を記入する際は、ボールペンを使用してください

2 受ける年齢

・接種時点で妊娠28週0日から36週6日までの妊婦の方

※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。

3 使用ワクチンと接種回数

組換え RS ウイルスワクチン(アブリスボ)を妊娠毎 1 回

※過去の妊娠時に組換え RS ウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を接種したことのある方も対象です。

4 接種方法

- ・松戸市と契約をしている医療機関で受ける個別接種です。(別紙医療機関一覧表参照)
- ・契約している医療機関以外では「予診票(無料券)」は使用できません。
- ・転出等で松戸市に住民登録がない場合は、松戸市発行の「予診票(無料券)」は使用できません。

5 受けることができない人

- (1)明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます)のある人
- (2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3)本剤の成分によってアナフィラキシーを起こしたことのある人

アナフィラキシーというのは通常約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。

- (4)その他、医師が不適切な状態と判断した場合

5 受けることに注意が必要な人

- (1)接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- (2)筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
- (3)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
- (4)予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- (5)けいれんを起こしたことがある方
- (6)免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (7)組換え RS ウイルスワクチン(アブリスボ)の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

7 接種上の注意

- (1)ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください
- (2)入浴は差し支えありません。注射した部分は清潔に保つようにしてください
- (3)当日は、激しい運動は避けましょう。

8 予防接種による健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

◎何か気になる症状が出た場合は、医師の診察を受けてください